

非特異性腰痛に対するオステオパシー手技療法：システマティックレビューおよびメタアナリシス

Helge Franke, Jan-David Franke, and Gary Fryer

抄録

背景：非特異性背部痛は一般的なものであり、日常生活に支障をきたし、費用もかかる。したがって我々は、痛みと機能状態に関して、非特異性腰痛（LBP）の管理におけるオステオパシー手技療法（OMT）の有効性の評価を行った。

方法：2013年10月、言語による制限のない体系的な文献検索を、電子のおよび進行中の試験データベースで実施した。参照リストと個人的なコミュニケーションによる検索によって、追加の研究の特定を行った。ランダム化臨床試験のみが取り入れられた。特定の背部痛または単一治療法の研究は除外された。アウトカムは疼痛と機能的状態であった。研究は、標準化されたフォームを使用して、独立してレビューを行った。95%信頼区間（CI）の平均差（MD）または標準平均差（SMD）、および全体的なエフェクトサイズは、治療後3か月で計算を行った。エビデンスの質の評価にはGRADEを用いた。

結果：307件の研究が選別された。31件が評価され、16件は除外された。レビューされた15件の研究のうち、10件は非特異性腰痛に対するOMTの有効性で、3件は妊婦の腰痛に対するOMTの効果、2件は産後女性の腰痛に対するOMTの効果进行调查したものであった。12件でバイアスのリスクは低かった。エビデンスの質が中のもので、急性および慢性の非特異性腰痛の疼痛緩和（MD、 -12.91 ；95%CI、 $-20.00 \sim -5.82$ ）および機能状態（SMD、 -0.36 ；95%CI、 $-0.58 \sim -0.14$ ）に関して、OMTは有意に効果があることが示唆された。慢性非特異性腰痛では、エビデンスの質が中のもので、疼痛（MD、 -14.93 ；95%CI、 $-25.18 \sim -4.68$ ）および機能状態（SMD、 -0.32 ；95%CI、 $-0.58 \sim -0.07$ ）に関してOMTの支持に有意差があった。妊娠中の非特異性腰痛については、エビデンスの質が低のもので、疼痛（MD、 -23.01 ；95%CI、 $-44.13 \sim -1.88$ ）および機能状態（SMD、 -0.80 ；95%CI、 $-1.36 \sim -0.23$ ）に関して、産後の非特異性腰痛

に対しては、エビデンスの質が中のもので、疼痛 (MD、-41.85 ; 95%CI、-49.43 ~ -34.27) および機能状態 (SMD、-1.78 ; 95%CI、-2.21 ~ -1.35) に関して、OMT の支持における有意差が示唆された。

結論：治療後 3 か月の時点で、急性および慢性の非特異性腰痛患者の痛みの軽減と機能状態の改善において、また妊娠中および産後の女性の腰痛において、OMT の臨床的な効果が認められた。ただし、堅牢な比較グループを使用した、より大規模で質の高いランダム化比較試験が推奨される。

原論文

Osteopathic manipulative treatment for nonspecific low back pain: a systematic review and meta-analysis

Helge Franke, Jan-David Franke, and Gary Fryer

BMC Musculoskelet Disord. 2014; 15: 286.

Published online 2014 Aug 30.

翻訳者：佐藤鉄也, MRO(J)

